



村尾 明利 議員

質問

# 無電柱化で美しい農村風景を

町長

## 県当局へ強く要望していきたい



無電柱化が実施されているJR横田駅前街路

**質問** 「たたら製鉄に由来する奥出雲の資源循環型農業」として、日本農業遺産・世界農業遺産登録に期待が高まっており、全国に向けて本町からの情報発信は、より重要度を増すものと考え、新たな施策を展開・発信する必要がある。

**国土交通省は、本年4月無電柱化推進計画を定め、脱・電柱社会を推進するとしている。**  
本町にふさわしい美しい農村風景を整える施策として長期展望に立って無電柱化推進を検討すべきだ。

**町長** 事業採択に係る費用対効果、許認可事項など、事業採択のハードルは高く事業化は難しい。安全で円滑な交通確保及び良好な住環境整備や景観形成、観光振興の観点から必要であり、中・長期計画で取り組んでいくべき施策として今後、県当局へ強く要望していきたい。

**町長** 本町のハウス雪害対策を考える上で参考になる情報と思うが、設置費用が1アール当たり300万円前後と一般的なビニールハウスと比較して非常に高額である。  
県に対して、耐雪性能など実証試験を実施いただき県補助事業の対象にならないか検討している。

**町長** 全国的に自治体も空き家バンクに登録された空き家とこれに付随する小規模農地を移住者等に提供する取り組みがある。  
現在、農業委員会において実態調査を実施しており、この結果を踏まえて面積要件の緩和について、年内の決定を目途に検討中だ。

**質問** 豪雪地帯の長野県の住宅建築会社と信州大学が共同で開発した耐雪性と保温性に優れた「木造農業用ハウス」が注目されている。  
本町で実証モデルハウスを取り組み、町リース事業につなげてはどうか。

**質問** 農地法では、取得後の面積が原則50a以上であることに要件にしている。特例要件として緩和し、定住や農業振興に効果を上げている自治体もある。小規模な(1a程度)畑の分譲・貸出斡旋ができないか。

### 木造農業用ハウスの取り組みを